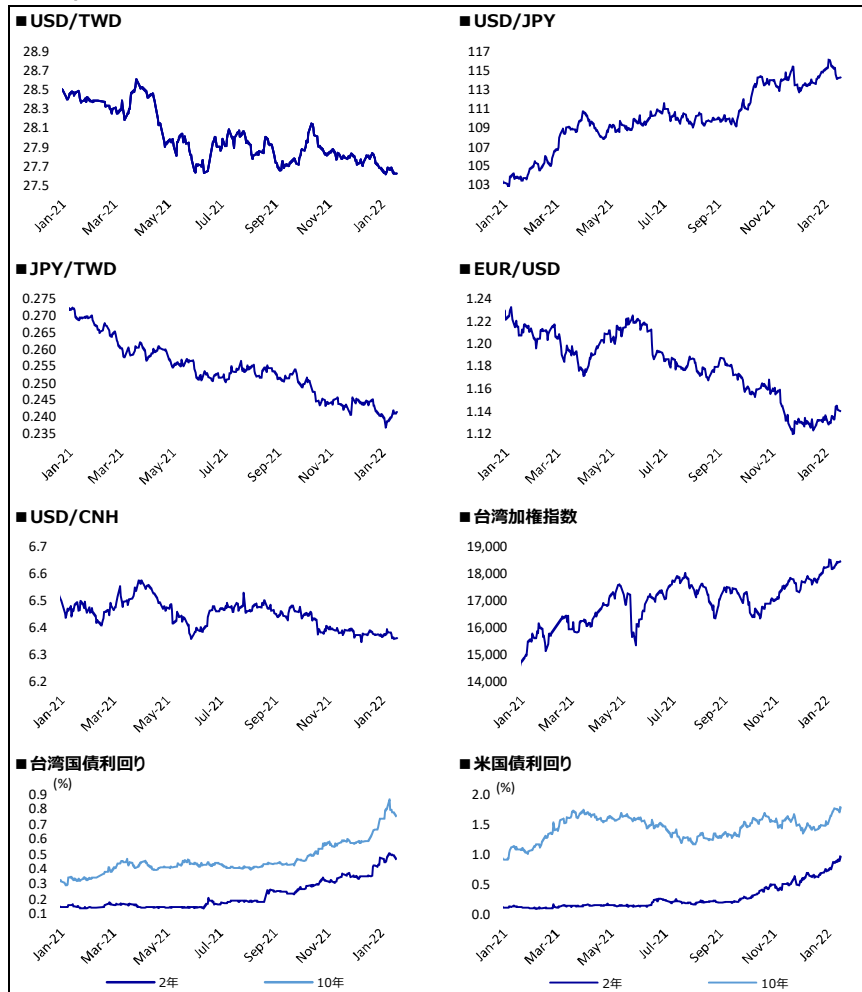


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/10は27.680でオープン後、台湾株が下落すると27.70付近まで上昇したものの、台湾加権指数が前日比プラス圏に戻すと27.66付近で推移。1/11も台湾株の動きに左右され、前日のFEDの金融引き締めへの警戒感からの米国株安により一時台湾株も売られたが、好調な台湾企業の株は買われ、ドル台湾ドルの上値は限定的であった。1/12も台湾株が買われ、ドル台湾ドルは27.65付近で推移。1/13は寄り付きから台湾株が上昇すると、一時27.62付近まで下落したものの、すぐに買い戻され27.70近くまで上昇。その後、半導体大手の業績への期待から外国人投資家の資金流入や、輸出企業のドル売りで27.63付近まで戻した。1/14も半導体大手への海外からの投資需要が強く、台湾ドル買いが優勢となると一時27.595まで下落したが、最終的には調整も入り、先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.624で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は424.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初1/10は115.57でオープン後、日本が休場の中、狭いレンジで推移していたが、Fedの年内の4回利上げやバランスシートの縮小前倒し観測が高まり、金融引き締めへの警戒感に各国株価が下落する中、リスクオフの流れから円買いが強まった。米10年債の利回りが再度1.8%台に乗せるもドル円は下落し、115円台前半で推移。1/11は欧州株が堅調に推移するとリスク回避で買われた円が売られ、115円台前半まで戻したが、米3年債入札が好調であったことから米金利が低下する動きにつれてドル円も低下し、115円台前半に。1/12は米12月CPIが発表されると予想通りの前年比+7.0%と約40年ぶりの高水準となったが、既に織り込み済みで、米金利の低下と共にドル円は売られ、114円台前半まで下落。1/13もドル売りの流れが継続し、米12月PPIが予想を下回り、米金利が低下するとドル円もじり安となり、114円ちようどまで下落。1/14は日銀がインフレ上昇を受け金融政策変更を検討しているとの報道から円買いが優勢となり、114円を割り込み113円台後半で推移。その後の米12月小売売上高が予想を下回ると一時113.48まで下落したが、週末を控え調整が入り、最終的に先週比1.2%ドル安円高の114.18で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.520-27.720
先週は台湾半導体大手の業績への期待が高まり、外資の流入が増加した。引き続き、台湾株高台湾ドル高の流れとなるであろうが、春節を前に輸出企業のドル売りの動きにも警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.50-115.00
先週は米CPIをきっかけにドルロングのポジション調整の動きが強まったが、日銀の金融政策変更にも注目が集まった。今週は日銀金融政策決定会合を控えており、注意が必要であるが、足許では日銀の動向の影響はドル円相場に対しては一時的な影響しか持たないことが多い。また、ポジション調整も進んでいることから、今週は下値は限定となるであろう。

今週の予定

1/17 (MON)	
1/18 (TUE)	日銀金融政策決定会合、米1月ニューヨーク連銀製造業景気指数
1/19 (WED)	米12月住宅建設許可・着工件数
1/20 (THU)	台湾12月輸出受注、米1月フィラデルフィア連銀業況指数
1/21 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。